

物流不動産評価機構/9月倉庫賃料相場

川崎内陸部、伸び最高 最高値は東京湾岸部

日本物流不動産評価機構(望月光政理事長)は17日、首都圏の物流不動産に特化した9月版の募集賃料相場を発表した。前回(2011年11月〜12年2月)の調査に比べて、1坪(3・3平方メートル)当たりの賃料が最も伸びたのは川崎市の幸区、中原区など内陸部。賃料は5080〜5530円で、最安値は8・0%伸長した。調査は、延べ床面積330平方メートル以上の倉庫を対象に実施。地域別にみると、最高値は前回に引き続き東京都品川区、大田区などの湾岸で、6240〜7790円だった。一方、最安値は埼玉県羽生市、加須市など

の県北で2460〜3540円。賃料は前回調査時よりも下がった。千葉県では、船橋市や習志野市など湾岸、千葉市緑区や稲毛区など県央の賃料が上昇した。賃料相場のベースとなったのは、イーソーコ(遠藤文社長、東京都港区)が運営

する物流不動産情報のポータルサイト「イーソーコ.com」。登録されている全国3万件以上のデータから首都圏の賃貸物流施設の平均募集賃料を抽出して、日通不動産(佐野弘明社長、同)の分析を加えた。

(山上 隼人)